

新しい占い空間とその影響*

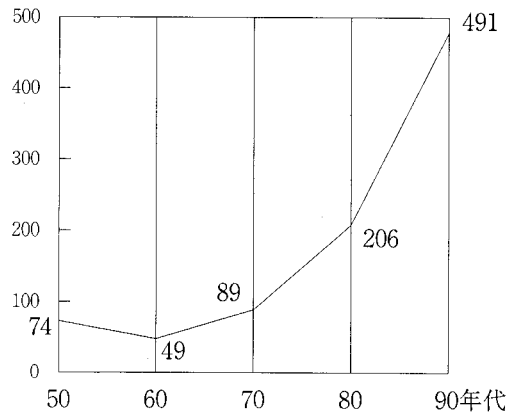
種 田 博 之**

一. はじめに

今日、我々は占いにまつわる様々なモノ・商品を日常の生活のいろいろな場面で見ることができる。占いに関連するモノ・商品には、例えば書籍(出版物)をはじめとして、繁華街では詳しくは後述している〈占いの街(ないしビル)〉やゲームセンターの「占い系のゲーム機」、雑貨店などにはファッショングッズとして多くの「占いグッズ」がある。そして、近年インターネットの世界でも占いを見ることができる。こうした「占い産業」は、一説によれば、「一兆円産業(『週刊SPA』1997.7.23 扶桑社)」であるらしい。そうした関連商品なかでもとりわけ「占い産業」の典型的なものは、書籍だろう。占いに関する書籍は今日たくさん出版されている。大規模の書店に行けば必ずと言っていいほど、占い関係の書籍ばかりを集めた「占いのコーナー」を見ることができる。これと関連して、占いを「専門」とする雑誌もいくつか刊行されている。例えば、『マイバースディ』(実業之日本社、一九七九年創刊)や『ミスティ』(実業之日本社、一九八〇年創刊)などがそうであ

る¹⁾。そして、その他の雑誌においても、例えば『アン・アン』(マガジンハウス、一九七〇年創刊)や『ノン・ノ』(集英社、一九七一年創刊)などの若い女性向けの雑誌では、増刊号もしくは特集号として、年に何回か占いに関する特集が組まれ、そうした増刊号ないし特集号は通常のものよりも多く売れるそうである²⁾。そして、占いにまつわる出版物は図表1のように、年をおうごとに増加している³⁾。とくに一九六〇年代以降、書籍数は倍倍と増加し、一九九〇年代の書籍数は一九六〇年代

図表1 書籍数



* キーワード：〈占いの街〉

**関西学院大学社会学研究科研究員

- 1) その他には『モニク』(実業之日本社、一九八九年創刊)、『エルフィン』[学習研究社、一九八九年創刊(一九九六年休刊)]などがある。
- 2) 筆者の各出版社の編集部に対してのインタビューによる。
- 3) 図表1は〈JAPAN/MARC〉を用いて、「占い」、「タロット」、「運勢」、「易」、「四柱推命」、「手相」、「血液型占い」、「占星術」、「姓名判断」をキーワードにして検索し、その論理和の結果(1997/9/12現在)である。なお、『大宅社一雑誌記事事件目録(一九九五年分まで収録)』(以下『大宅文庫』と略記)を利用して、占いにまつわる記事事件数を調べると図表2となる(検索項目は大項目「宗教・思想」、中項目「易占」、小項目「易術一般」、「人相、手相」、「血液型占い」、「占星術」である)。図表2から、雑誌記事事件数もかなり増加していることがわかる。なお、〈JAPAN/MARC〉および『大宅文庫』とも、すべてを網羅できているというわけではない。

図表2 雑誌記事事件数

